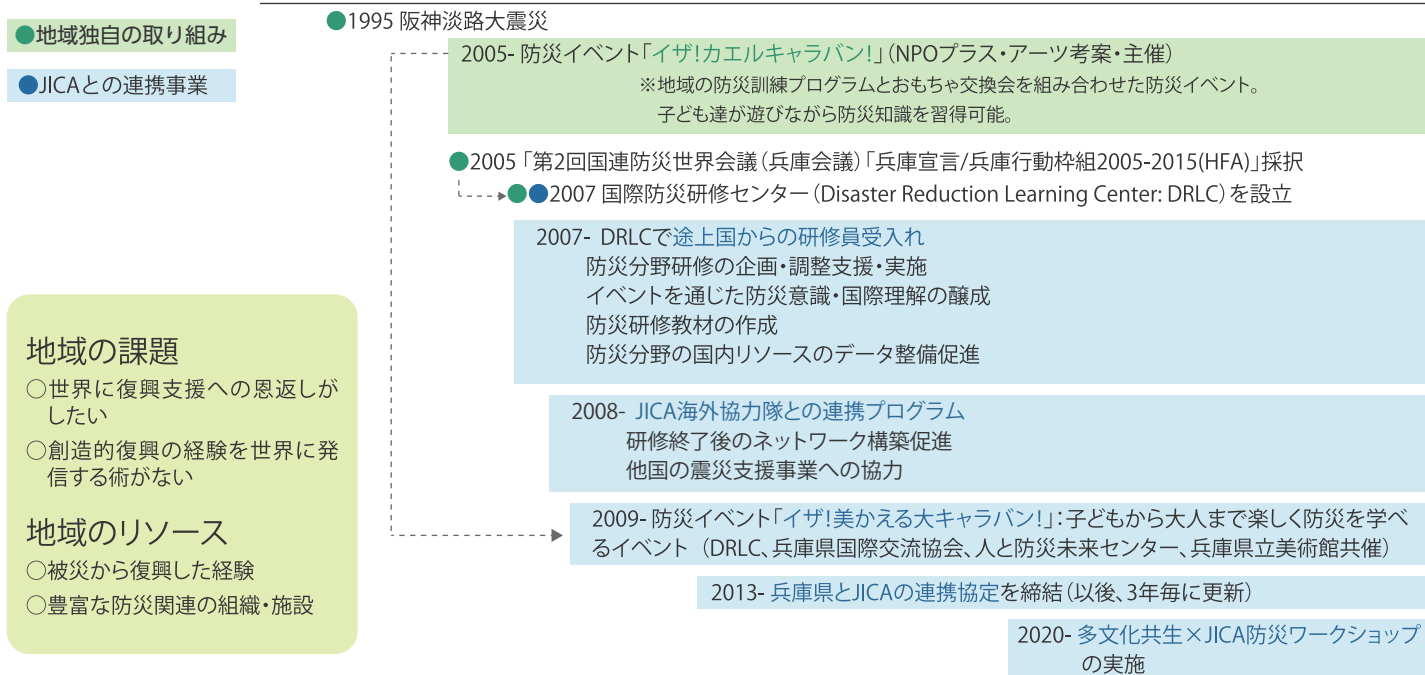


創造的復興を進める兵庫県と共に 国内外の防災人材育成を担う国際防災研修センター

阪神・淡路大震災で甚大な被害を受けた兵庫県。復興の際に、世界中から様々な支援を受けて、その恩返しをしたいと考えていた兵庫県は、「創造的復興」の経験を世界に伝えるために、国際防災研修センター（DRLC）をJICAと共同で設立しました。DRLCでの防災研修を通じて、世界への恩返しを果たすと共に、地域コミュニティの国際対応力の向上にも繋がっています。また、DRLCの持つ知見やノウハウを生かした多文化共生支援も展開しており、防災をテーマに、地域の国際理解の向上に貢献しています。

取り組み年表



JICA 研修受入れを通じた災害時を想定した地域コミュニティの国際対応力の向上、多文化共生支援

国際防災研修センター（DRLC）の設立

DRLCは、日本の知見、特に阪神・淡路大震災を通じた兵庫県や神戸市などの創造的復興の経験と教訓を活かし、開発途上国の国づくりと人づくりを支える防災分野研修の拠点です。2007年に、**兵庫県とJICAの共同で設立**し、兵庫県内の防災関連機関の協力を得て、**防災研修**を実施しており、これまでに累計304の研修コース・3,335名の研修員を受け入れてきました。

防災研修を通じた国際交流

防災研修の1つである「**コミュニティ防災研修**」では、途上国からの研修員が地域の防災訓練に参加したり、宿泊を伴う避難訓練に参加したりしており、災害発生時に避難所に外国人がいる場合の対応に関するシミュレーションにもなっています。また、地域住民にとって、途上国の人と交流する貴重な機会になっています。

防災イベントによる啓蒙と国際交流

また、NPO法人プラス・アーツが開発した「イザ!カエルキャラバン!」の仕組みをベースに、2009年から、JICA関西/DRLC、人と防災未来センター、(公財)兵庫県国際交流協会、兵庫県立美術館との共催で「イザ!美かえる大キャラバン!」を実施しています。次世代を担う子ども達に防災・減災の大切さを感じてもらうためのイベントであり、イベント当日は**途上国からの研修員**も運営スタッフとして参加しています。市民と途上国研修員の国際交流の場にもなっています。

多文化共生支援への展開

さらに、**JICA関西**では、2020年から在住外国人に対する**多文化共生支援**を実施しており、**DRLC**の持つ防災分野での連携機関とのネットワークを活かし、防災ワークショップを実施しました。防災研修を通じた世界への恩返しを果たし、国内の多文化共生支援に取り組み始めています。

JICA国内拠点との協働	JICAからの出向者	国際協力推進員	多文化共生支援	協力隊の関与
自治体連携協力隊派遣	途上国研修員の受入	協力隊派遣前訓練	草の根技術協力事業	民間連携事業
JICA技術協力との連携	開発教育	その他		

ケース 13 兵庫県

地域へのインパクト

地域住民の活力向上

コミュニティ防災研修や「イザ!美かえる大キャラバン!」で、地域住民が途上国研修員と英語で話す場は、貴重な国際交流の機会となっています。また、研修における視察で、県内の防災施設を訪問することで、外国人来場者数の増加に貢献するなど、地域の活力に繋がっています。

地域のアイデンティティの強化

当時は県単独で海外に発信する機会が限られており、JICAと協力することで、兵庫県の「創造的復興」の知見を世界に共有することができました。

新たな連携の創出

公民連携による新イベントの創出や、研修を通じた受入れ機関と途上国研修員とのネットワークが創出されました。また、DRLC運営を通じて、JICAと兵庫県の繋がりが強化されたことで、海外での災害発生時に兵庫県からの支援を海外に繋げやすくなりました。

国際対応力/多文化共生の向上

地域の消防・防災訓練に、その地域に居住している外国人の参加が難しい状況がありますが、途上国からの研修員が訓練に参加することで、地域コミュニティにとっては外国人がいる場合のシミュレーションが可能となっています。また、DRLCの知見を生かしたワークショップを開催することで、地域の多文化共生支援の一助となっています。

地域人材育成

幼少期に「イザ!美かえる大キャラバン!」に参加した子どもが、2024年に高校生となり出展者になったケースが散見されました。当該イベントは地域の防災意識を高めるだけでなく、次世代の防災人材育成の一助となっています。

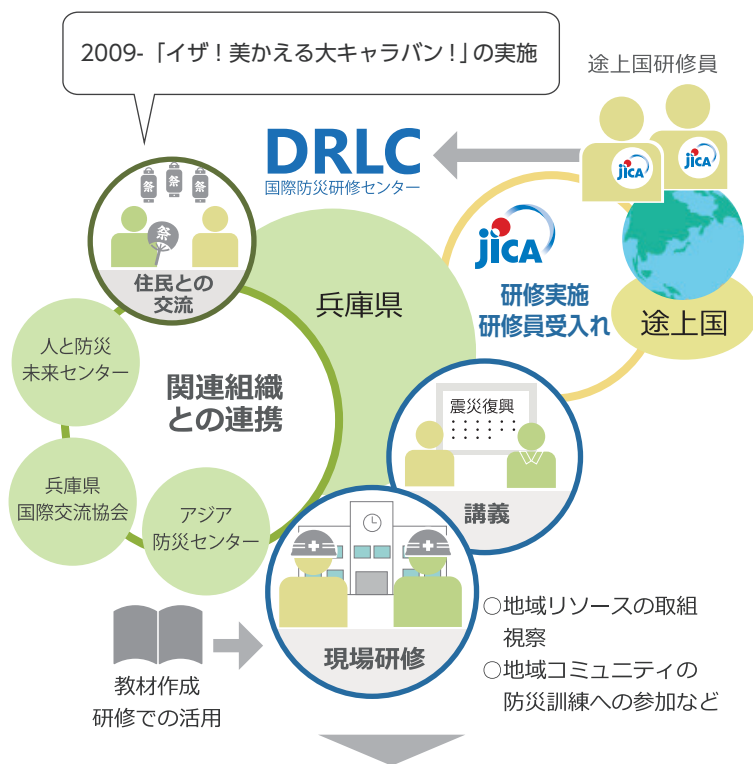
促進要因

兵庫県とJICAの実質的な連携体制: 兵庫県内にJICA関西が立地しているだけでなく、そこにDRLCが設置され、兵庫県が職員を派遣していることから、日常的に密なコミュニケーションを取り、実質的な連携が可能となっています。また、2023年末までの出向者は累計13人となり、兵庫県内に防災やJICAを理解した元DRLC職員が増えることで、新たな連携の創出に繋がりがやすくなっています。

阪神淡路大震災からの創造的復興と DRLC の設立



JICA 研修を通じて、地域住民の国際対応力が向上



創造的復興による国際協力と、兵庫県の多文化共生支援への派生的展開

